

# 電動アシスト自転車BM-A30 20インチ

## 取扱説明書 最終ページ保証書付 Ver. 1.0

品質保証書及び、自転車点検チェックリスト付ですので、大切に保管して下さい。

自転車を安全で快適にご使用いただくため必ずお読みください。

お買い上げありがとうございます。お求め頂きました自転車の性能を十分に引き出しつつまでも安全にお乗りいただくために、自転車の正しいご理解で使用していただくことが必要です。ご使用方法を誤りますと大きな事故につながりかねません。お乗りになる前にこの取扱説明書を良くお読みいただき正しいご理解で使用していただくようお願いいたします。本自転車は、日常生活用として設計されています。業務用としてはお使いにならないでください。

取扱説明書をお読みいただく前に下記項目をご覧ください。

- ・お買い上げ店にてご確認のうえ、必ず防犯登録をしてもらってください。
- ・購入後の初期点検および定期点検は必ず実施してください。
- ・お子様がご使用の場合は、保護者の方が必ずよく読んで正しい乗り方と注意事項などについて、わかりやすくご指導ください。
- ・取扱説明書は読んだあとは大切に保管して、必要に応じてご活用してください。

**警告表示について** 警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますので特に注意してください。

	警告	取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。
	注意	取扱いを誤った時に使用者が、障害を負う危険が想定されるとき及び、物的障害のみの発生が想定されるもの。
	禁止	危険の程度と関係なく、道路交通法で禁止されている行為（荷台等に二人乗りをする等）又は、当自転車ではいけない行為。
	強制	使用者に必ず実行していただきたいこと。

※本書のイラスト、写真は、イメージです。  
(お買い上げいただいた自転車とは、形状、デザインが異なる場合があります。)

# 目次

---

安全上のご注意	..... P1
・自転車	..... P3
・バッテリー、充電器	..... P5
電動アシスト自転車について	..... P7
各部のなまえ	..... P8
お乗りになるまえに	..... P9
・組立て手順	..... P9
・折りたたみ手順	..... P10
・正しい姿勢で乗りましょう	..... P14
・交通ルールを守りましょう	..... P16
・道路標識を守りましょう	..... P16
乗りかた	..... P17
・電源の入れかた	..... P17
・発進のしかた	..... P17
・アシストモードについて	..... P18
・前照灯(LEDライト)について	..... P19
停止、駐輪のしかた	..... P20
充電のしかた	..... P20
バッテリーについて	..... P22
お手入れと保管	..... P23
故障かな?と思ったら	..... P24
・自転車	..... P24
・充電器、バッテリー	..... P26
防犯登録について	..... P27
点検・整備チェックリスト	..... P28
仕様	..... P29
品質保証規定/保証書	..... 未巻

# 安全上のご注意

\*ご使用前に必ず、この「安全上のご注意」を良くお読みいただき正しくお使い下さい。

\*お子様がご使用の場合は、保護者の方がこの「安全上のご注意」を必ずお読みいただき正しい乗り方をご指導下さい。

\*ここに示した注意事項等は、製品を安全に正しくお使いいただく為に、誤った扱いをすると生じることが想定される事を危険・警告・注意の3種類に区分した、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

 危険	「死亡」や「重傷」を負うおそれ大きい内容です。
 警告	「死亡」や「重傷」を負うおそれがある内容です。
 注意	「傷害」を負うことや「物的損害」が発生するおそれがある内容です。

 	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

 【警告】	
	改造や分解はしない。 部品の破損などによって、外れて転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	調整後の締め付け（車輪・サドル・ハンドル・バッテリーなど）を確認せずに乗らない。 車輪やサドル、ハンドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
	サドルやハンドルの引き上げ限界点標識が見えるまで上げない。 サドルやハンドルの折れや抜けによる、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	異常がある場合は乗らない。 異常があるまま走行すると事故や転倒によるけがのおそれがあります。
	飲酒運転は禁止。 ヘッドフォンを使用しながら、傘を差しながら、携帯電話を使用しながらの運転はしない。かぜ薬などを服用するとき、また体調が悪いときは乗らない。 転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	荷物をハンドルや手にかけてり、ペットをつないで乗らない。 荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。

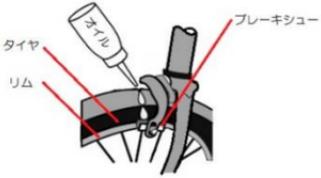


## 【警 告】

 禁止	かかとの高い靴や、滑りやすい靴を履いて乗らない。 足がペダルから外れて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	飲酒運転は禁止。 二人乗りは禁止。 *6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合や幼児二人同乗用自転車を除く
 禁止	雨・風・雪のひどいときは、乗らない。 バランスをくずし、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	次の様な運転はしない。 ヘッドフォンを使用しながらの運転・傘を差しながらの運転・携帯電話を操作しながらの運転。
 禁止	走行中に手や足で前照灯の角度調整はしない。 *停止した状態で、前照灯の角度を調整してください。 前方不注意となり、転倒や衝突・手足が車輪に巻き込まれけがをするおそれがあります。
 禁止	凹凸の激しいところを走らない。 *歩道の段差や溝など フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。降りて押して歩いてください。
 禁止	合図以外は、ハンドルから手をはなさない。 バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	カーブで曲がる側のペダルをさげない。 ペダルが地面と接触し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
 禁止	巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させてのらない。 *長いスカートやマフラー、傘など 車輪やギアに巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	傘や釣りざお、ステッキ等車体に差し込んだり下げたりしてのらない。 車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	スポークの間にボール（固形物）などを入れて走らない。 車輪に巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	走行以外には使わない。 踏み台代わりなどに使用すると、転倒によるけがのおそれがあります。
 強制	自転車用ヘルメットを着用。 頭部の保護のために有効です。 幼児を同乗させる場合も必ず自転車用ヘルメットを装着させてください。

# 安全上のご注意（自転車）

 禁止	けんけん乗りしない。 転倒や接触事故によるケガの恐れがあります。
 禁止	前ブレーキだけのブレーキ操作はしない。 転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	組立て前の自転車や、未調整の自転車に乗らない。 通常の運転が出来ず転倒や衝突によるケガの恐れがあります。
 強制	前後ブレーキ動作やハンドル・車輪の固定、タイヤ空気圧などの乗車前点検をおこなう。 異常があれば、転倒によるケガの恐れがあります。空気圧が適正でないとはパンクやリム破損による転倒でケガの恐れがあります。
 接触禁止	回転部分に手や足、物を近づけない。 巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	巻き込まれやすい服装では乗らない。 スラックス、スカートの裾、マフラーなどは車輪やギアに巻き込まれ、転倒によるケガの恐れがあります。
 強制	ご使用開始から2ヵ月以内に販売店で、自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。 ご使用開始から2ヵ月位で各部のネジがゆるむことがあります。
 禁止	スピードを出しているときは急ハンドルの操作をしない。 急カーブでスピードを出し過ぎない。 スリップや転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	夜の無灯火での運転は交通違反です。 視界が悪い時（夜間、トンネル内、霧など）は無灯火で走らない。 見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 自動車からも見えにくくなり危険です。 前照灯が故障していたり、リフレクターが破損あるいは汚れている場合は自転車を押して歩いてください。
 禁止	自転車を走行以外の目的で使用しない。 腰掛けや踏み台など目的外のことで使わないでください。 転倒によるケガの恐れがあります。 スタンドを立てたままペダルを強く踏み込まないでください。 駆動補助機付自転車の特性で発進しようとする場合があります。

 <p>禁止</p>	<p>ブレーキシュー、タイヤ、リムには注油しないこと。 ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガの恐れがあります。</p> 
 <p>禁止</p>	<p>走行中は電源スイッチ、アシストモードスイッチ、ライトスイッチの操作をしない。 前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 必ず停車した状態で操作してください。</p>
 <p>水ぬれ禁止</p>	<p>水洗いはしない。 浸水により電気部品や配線の絶縁が劣化して、漏電など故障の原因になります。</p>
 <p>強制</p>	<p>走行中に異音が発生したり、自転車が転倒したり、水に浸かってしまったなどで異常が発生した場合は直ちに使用を中止し、保証書記載のサポートセンターまでご連絡ください。 そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>走行中に残量表示ランプ等を注視しない。 表示に気を取られ、前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。</p>
 <p>強制</p>	<p>1年ごとにお近くの自転車販売店で自転車安全整備士、自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。 また、部品の交換は下記の目安で行ってください。 ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブレーキワイヤは、異常が無くても2年に1回は、交換してください。</li> <li>●ブレーキレバーの遊びが大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 ブレーキが効かない恐れがあります。</li> <li>●ブレーキゴムは、溝の残りが1mmになる前に交換してください。</li> <li>●チェーンのたるみの大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。</li> <li>●タイヤは、接地面（トレッド）の溝が無くなる前に交換して下さい。</li> </ul>

# 安全上のご注意 (バッテリー、充電器)



## 【危険】

	バッテリーを火中に入れたり、過熱をしない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	バッテリーに衝撃を与えたり、分解や改造はしない。 ケースの破損、感電、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	端子 (+ -) に金属などを接触させない。 感電や液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	アシスト自転車専用バッテリーですので、他の機種・機器・用途には使用しない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	火のそばなど高温の場所での充電・使用・放置はしない。 自転車本体からバッテリーを外して充電して下さい。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	充電器のケース・コードやプラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
	バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する。 他の充電器を使用すると、発火・異常発熱・故障・破裂のおそれがあります。
	バッテリー液が目に入った時は、こすらずきれいな水で十分洗い流しただちに医師の治療を受ける。 失明のおそれがあります。



## 【警告】

	充電器の分解・改造や端子間のショートはしない。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
	傷ついたまま使用しない。 ケースなどを破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれがあります。異常発熱や破裂のおそれもあります。
	衝撃を与えたり、落下や水漏れ、高温な場所での使用はしない。 発熱、発火、感電のおそれがあります。

## 【警 告】

 禁止	幼児、ペットなどが触れる可能性がある場所には放置しない。 感電、ケガ、故障、火災の原因になります。
 禁止	充電器は専用バッテリー以外使用しない。 バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。
 禁止	バッテリーの液が衣類や皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗いがす。 皮膚に傷害を及ぼすおそれがあります。
 禁止	充電中は上に物を置かない。 内部が発熱して、火災のおそれがあります。
 禁止	充電器本体に、電源コードを巻きつけて保管しない。 電源コードなどが断線し、傷んだまま使用すると感電、故障、火災の原因になります。
 ぬれ手禁止	電源プラグをぬれた手で抜き差ししない。 感電するおそれがあります。
 強制	電源プラグは根元まで差し込む。 不完全な差し込みだと、感電や発熱による火災の原因となります。
 強制	電源プラグや充電端子についたほこりなどは取り除き、油などは付着しないようにする。 感電や発火のおそれがあります。

## 【注 意】

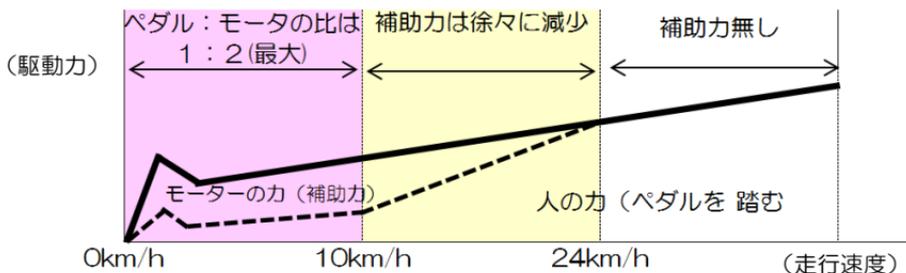
 強制	充電中は、同じ箇所を長時間皮膚に触れさせない。 温度が40℃～60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。
--	---

# 電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は普通の自転車と異なり、ペダルアシスト付きの自転車です。電動アシスト自転車についての正しい知識を身につけましょう。

## ～ペダルアシストとは～

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助力を加えて走行を助ける機能です。



下記のようなときはペダルアシストが働きません。

- 速度が24km/h以上のとき  
※速度が24km/h以下でも平地などペダルの負荷が少ない道路では、ペダルアシストが働かない場合があります。また、速度が24km/hに近づくと補助力は徐々に減少していきます。
- ペダルの回転を止めているとき。
- バッテリー残量が少なくなったとき。  
※バッテリー残量がなくなるとペダルアシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。

## ～走行できる距離の目安～

1回の充電で走行できる距離は

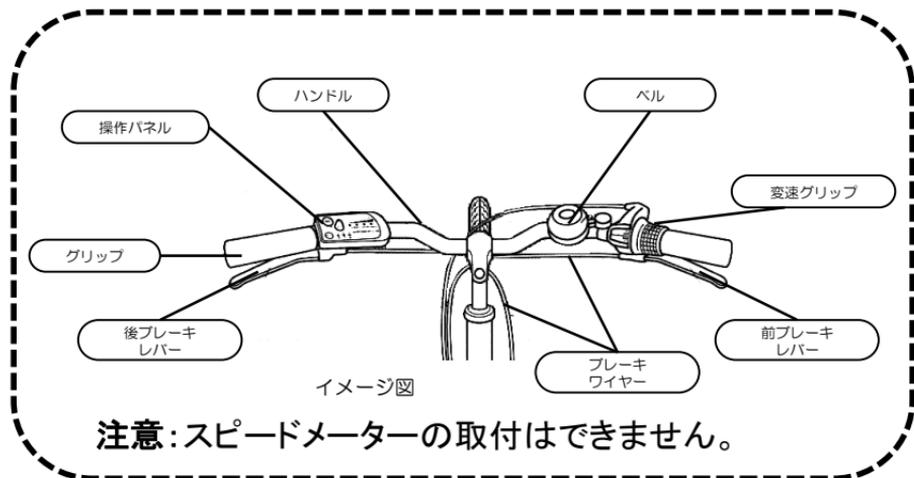
- BM-A30（20インチ）最大約30km（平坦な道での走行）

条件：バッテリー新品、温度20℃、無風状態、前照灯消灯、  
車載質量60kg（乗員および荷物を合計した質量）、アシストモード エコ、  
標準空気圧、平坦な道路。

- ※走りかた、道路状況、気候などにより1回の充電で走行できる距離は異なります。  
特に整備状態、積載質量の増加や登り坂が多い場合、ペダルを強く踏み込む走行が多いなど、ペダルアシストの走行できる距離が短くなります。
- ※バッテリーの特性上、冬季は走行できる距離が短くなりアシスト力が低下することがあります。
- ※バッテリーの特性上、充電回数の増加に従い、1回の充電で走行できる距離が短くなります。  
走行距離はあくまでも目安で、1回の充電による走行距離を保証するものではありません。

# 各部のなまえ

## ハンドル部



# お乗りになる前に

# 組立て手順

## 1.車両本体（車体部）を組み立てる



注意

★フレームのジョイント部分を持って開閉しない

❗ 指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

★ジョイント部分が確実に固定されているか確認する

❗ フレームのジョイント部が開き、転倒によるけがのおそれがあります。

①二つ折りにになっている自転車を開き、仮固定する。



②スタンドを立てる。



イメージ図

③ジョイントレバーをフックにかけ、前方(進行方向)へ倒してジョイントロックを下げて固定する。

フック



ジョイントロック

注：ジョイントレバーが確実に固定されていることを確認してください。  
ジョイントロックが下がっていることを確認してください。

ジョイントレバー

イメージ図

## 2.ハンドルを組み立てる

①ハンドルを起こす。

(折りたたみレバーのねじはゆるめておいてください。)



折りたたみレバー



警告

★ジョイント部分を持ってハンドルを起こさない



指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

★ハンドルの締付を確認せずに乗らない

★ハンドルを締付てもガタや緩みがあるときは乗らない



走行中、ハンドルが折れ曲がり、転倒によるけがのおそれがあります。

②折りたたみレバーを時計方向に締付けた後、レバーを倒して確実に締付る。



お願い

- 組立て後はハンドルが確実に固定され、がたつきがないことを確認してください。

## 折りたたみ手順

### 1. ハンドルを折りたたむ

- ①折りたたみレバーを持ち上げ、曲げてハンドルを倒す。



折りたたみレバー



警告

★ジョイント部分を持って折りたたまない



接触禁止

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

- ②ハンドルを折りたたむ。

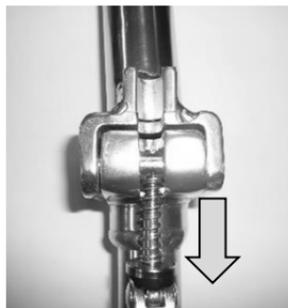
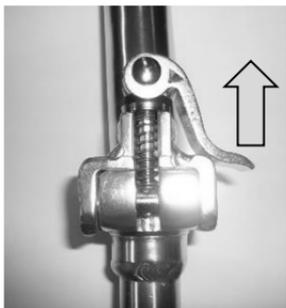


お願い

- ハンドルを折りたたむとき、ブレーキワイヤーがジョイント部等に引っ掛らないようにご注意ください。

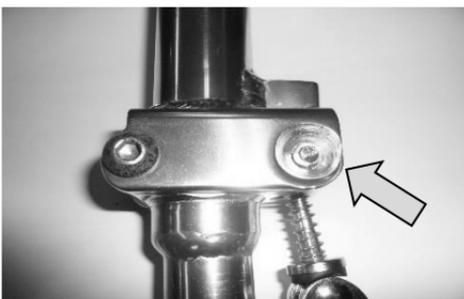
## ハンドルを折りたたむ

①折りたたみハンドル締付レバーを上へ上げレバーを緩めてから下におろす。



イメージ図

②矢印のボタンを押して、ハンドルを折りたたむ。



イメージ図



### お願い

- ハンドルを折りたたむとき、ブレーキワイヤーがジョイント部等に引っ掛らないようにご注意ください。



## 警告

★ジョイント部分を持って折りたたまない



指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

接触禁止

## 2. 車両本体（車体部）を折りたたむ

- ①右側のペダルが後方になるように、ギアクランクを回転する。



警告

★ジョイント部分を持って折りたたまない



接触禁止

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

- ②ジョインロックを上へあげ解除し、ジョイントレバーを手前にたおしをフックから外す。

ジョイントロック



ジョイントレバー



フック



- ③ジョイントレバーを後方へ回転させジョイント部を外す。



- ④スタンドを上げる。



- ⑤自転車の前半分を反時計方向に回転させて折りたたむ。



## ●組立説明

### ■ペダル取付け手順 (スパナ・専用工具等で緩みがないか確認して下さい)

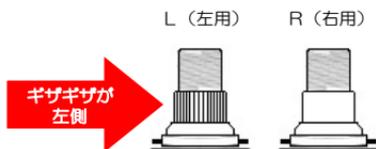
※ペダルには、右用 (R) と左用 (L) があります。

①ペダルの軸の端面に「R」(右用)、「L」(左用)の刻印があることを確認してください。(左の軸にギザギザの刻みがありますので確認してください。)

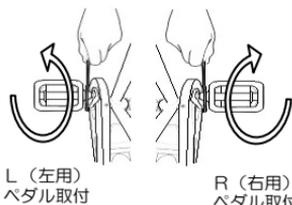
②右用のペダルは右足をのせる方に、左用のペダルは左足をのせる方にネジをしめるように取り付けてください。

左右でねじ方向が逆になっていますのでご注意ください。

左右を間違えて無理に取り付けるとネジ山が破損することがありますので必ず正しく装着してください。



③ペダルの取り付けは、はじめに手で締められるところまで締めた後、スパナ/専用工具等でしっかりと本締めして、がたつき等がないか確認をして下さい。



### ■ハンドルの調整

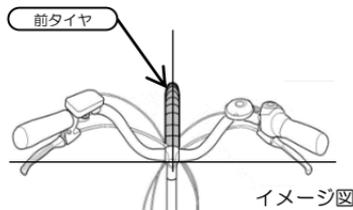
①六角レンチで引き上げ棒をゆるめます。

※ボルトをゆるめすぎると、ウスが引き上げ棒から外れてしまうのでゆるめすぎないこと。

②ハンドルが前輪に対して、90度(直角)にしてボルトを固くしめます。

③締めつけた後、ハンドルを軽くゆすってガタや曲がりがないか確認してください。

\*【警告】引き上げ線以上に引き上げない。

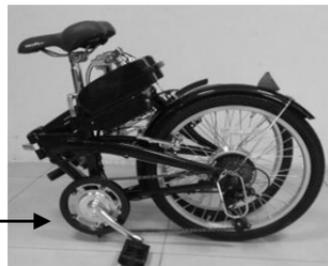


### ■折りたたみ時のスタンド保護プレートを外す

①梱包時には、折りたたみ時のスタンド保護プレートが装着されています。

②組立が完了後、スタンド保護プレートを横に動かし外してから、ご使用ください。

\* 梱包箱の破損防止の為に、装着しています。



# お乗りになるまえに

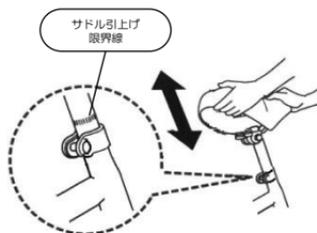
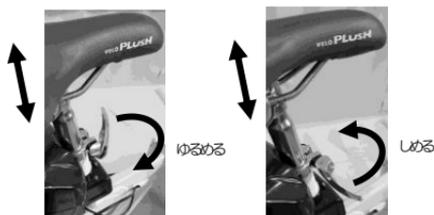
～正しい姿勢で乗りましょう～

安全に乗車していただくために、図のような姿勢になるようにサドルの位置調整してください。

サドルの高さは両足先が地面につくように調整してください。

## サドルの高さ調整

- ①サドル固定レバーをゆるめる方向に倒して、サドルの固定用のボルトをゆるめます。
- ②サドルを上下に動かして高さの調整をします。  
\*サドル固定レバーを十分に緩めずに、高さ調整を行うとシートポストを傷つけることがあります。  
\*【警告】引き上げ線以上には引き上げない。
- ③サドルを進行方向に真直ぐに向けレバーをしめる方向に倒して押しつけ、しめつけます。
- ④サドルを上下に左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。



イメージ図

## 正しい服装で乗りましょう

動きやすく運転しやすい服装で、自転車に乗ってください。

\*裾の広いズボンなどはズボンバンドで止めて、巻き込みや汚れを防止してください。

## 付属品の確認

自転車本体のほかに下記のものすべてが含まれることをご確認ください。

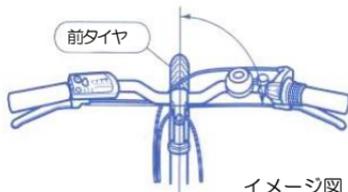
- 充電器
- 取扱説明書（保証書付）
- 盗難保証登録はがき
- 簡易工具（簡易スパナ）
- 締め付けバンド

安全に乗車していただくために、乗車前には下記の点検を実施する習慣をつけましょう。

- ・ハンドルの角度はひじが軽く曲がる程度に調整
- ・サドルの高さは両足先が地面につくように調整してください。

① ハンドルのがたつき・・・イラスト

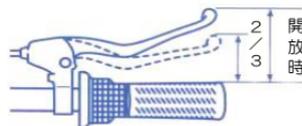
ハンドルを上下左右に動かし、がたつきがないか点検しましょう。  
ハンドルが前輪に対して90度（直角）になっているか点検。



イメージ図

② 前後ブレーキレバーの握りしろ・・・イラスト

ブレーキレバーが開放時の約2/3の位置で、ブレーキが効きはじめることを点検。



イメージ図

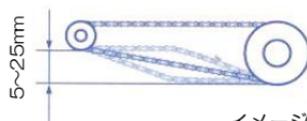
③ LEDライトの点灯

汚れ・破損がないか点検します、汚れは拭取り損傷している場合は交換してください。

また、LEDライトが点灯するか確認。

④ 前後車軸の固定状態

タイヤをゆすり、がたつきがないか点検。



イメージ図

⑥ チェーンの張り具合・・・イラスト

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mmあれば適正です。

⑦ バッテリーの取付状態

確実に取り付けられているか点検。

⑧ サドルのがたつき

サドルを上下左右に動かし、がたつきがないか点検。

⑨ ベルの鳴り具合・・・イラスト

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検。



イメージ図

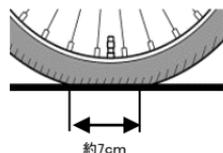
⑩ 前後タイヤの空気圧・損傷・摩耗

自乗車に乗車した時、タイヤの接地面の長さが約7cmになれば適正です。

摩耗やタイヤに釘などがささっていないか点検。

空気圧が減少していると、アシスト走行距離に大きく影響します。

\*標準空気圧はタイヤ側面に記載してあります。



イメージ図

⑪、⑫ ホイールリフレクタ、リヤリフレクタの汚れ・損傷

汚れ、損傷がないか点検。

汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。

点検で異常があった場合や転倒して異常があった場合は、乗らないでください。

# お乗りになる前に 交通ルールを守りましょう

2015年6月より改正道路交通法が施行されました、交通ルールを守りましょう

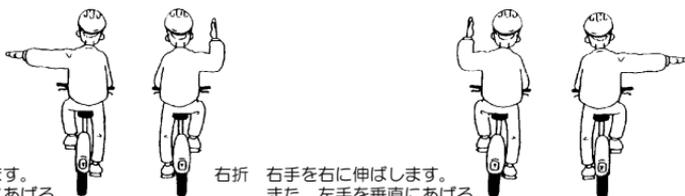
- ・自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。また、2人乗りは危険ですので絶対にやめてください。

## ●走行中は

道路のいちばん左を走るようにしましょう。後方・右側・前方の安全を常に確認してください。

## ●曲がるときは

曲がる方向に30mくらい手前から、手で合図しましょう。



## ●一時停止しましょう

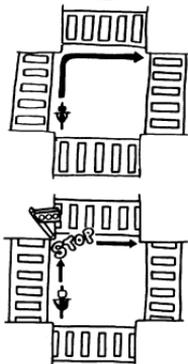
一時停止の標識があるときは停止しましょう。また、狭い道路から大通りに出るとき横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなどは必ず一時停止して安全を確かめてから走りましょう。



## ●信号のない交差点では

左折するときは、後方を注意しながら早めに合図し、できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。

右折するときは、できるだけ左によって交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落としてから曲がりましょう。



## ●信号のある交差点では

正面の信号が青のとき、直進と左折ができます。右折の場合は、交差点の向こうまでまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青にかわってから進みます。

## ●横断するには

道路を横断したり、交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければなりません。

## ●歩行者優先

横断歩道では、一度止まってから歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

## 標識を守りましょう



自転車通行止め



通行止め



一時停止



横断歩道



自転車専用



自転車横断帯



自転車歩道通行可

# 乗りかた

## ～電源の入れかた～

### ①キーを差し込みます。

バッテリー左側面の下にある鍵穴にキーを差し込みます。

### ②キーを時計方向に2段階回します。

キーの位置と機能は下表の通りです。



イメージ図

	ON	OFF	UNLOCK
キー	取り外し不可	取り外し可	取り外し可
電源	ON	OFF	OFF
バッテリー	取り外し不可	取り外し不可	取り外し可

## ～発進のしかた～

### ①スタンドを上げてサドルにまたがります。

ハンドルと前後のブレーキレバーをしっかりと握ってください。  
ペダルには足を乗せないでください。



けんけん乗りはしないでください。

転倒や接触事故によるケガのおそれがあります。

必ずサドルにまたがってから発進してください。

※けんけん乗りとは・・・

片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかたです。

### ②電源を入れる。

前後のブレーキレバーをしっかりと握ってください。

ペダルには足を乗せないで、電源スイッチを押すとランプが点灯します。

## 【注意】

- ペダルに足を乗せ踏みながら電源スイッチを入れないでください。  
電動アシスト自転車は、ペダルを踏み込むと力強く発進しようとするのでご注意ください。
- バッテリーの残量が少ない状態（残量表示1ヶ点等状態や点滅）のときはのほり坂で乗車しないでください。  
アシストが切れたときにバランスを崩して転倒によるけがの恐れがあります。
- 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。  
走行中アシストが切れた場合ライトも消灯します。
- 電源を入れて5分以上放置すると、エコモードが働き自動的に電源がOFFになります。



イメージ図

### ③残量表示ランプの表示状況を確認します。

残量表示ランプは下表のようにバッテリー残量の目安を表示します。

バッテリー残量表示	LEDランプ	走行の目安
	3ヶ点灯	ペダルアシスト走行できます
	2ヶ点灯	ペダルアシスト走行できます
	1ヶ点灯	そろそろ充電しましょう (バッテリー残量が少なくなりました)
	点滅	充電してください

※残量表示ランプが消灯していく間隔は、走り方・道路状況・バッテリーの状態により異なります。

※走行中ご出し時や坂道など負荷がかかった場合に一時的に残量表示ランプの点灯が減る場合もございます。

#### 【お願い】

お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、ペダルアシストで走行できる距離の目安としてください。

### ④安全を確認してから発進します。

ハンドル、ブレーキレバーをしっかりと握り、前後左右の安全を良く確認してからペダルを踏んで発進する。ペダルを踏み込むとペダルアシストが働き作動音がします。

※走行中はペダルアシストの作動音がしますが、異常ではありません。

#### 【お願い】

- ・電動アシスト自転車はペダルを踏み込むと力強く発進しようとするのでご注意ください。停車中はブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないでください。坂道などの手前では、ブレーキの効き具合を確認してください。
- ・電動アシスト自転車は普通の自転車に比べ若干重たい為、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。人がいない安全な場所で良く練習してから走行してください。
- ・ペダルアシストを使用し走行すると、モーターからギア音が発生する場合があります。
- ・お客様が実際に走行される条件とバッテリーの残量表示ランプの表示状況を確認し、ペダルアシスト走行できる距離を把握してください。

## ～アシストモードについて～

【アシストモードの切り替えかた】

- モード切替スイッチを押します。

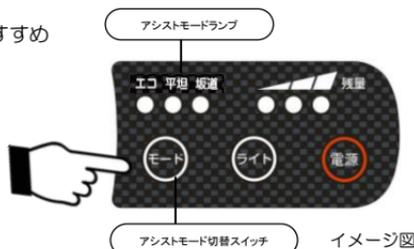
押すたびにアシストモードが切り替わり、ランプで表示します。

(注) 設定位置は一般的な使用例ですので、道路状況や体調などに応じて設定位置を選択してください。

**エコ** アシスト力を抑え、効率良く走りたい場合におすすめ  
●ペダルを踏む力が少なくてもよい場合など、アシスト力を抑えて節電走行します。

**平坦** 平坦地中心に一定のアシスト力で走りたい場合におすすめ  
●広範囲にお使い頂ける標準的なアシストモードです。

**坂道** 坂道を力強いアシスト力で走りたい場合におすすめ  
●上り坂など力強いアシスト力が必要なときは、より楽に走行できますが、電力の消費量は多くなり走行距離が短くなります。坂道の時にご使用ください。

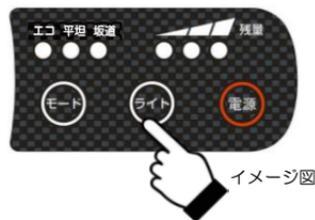


## ～前照灯（LEDライト）について～

### 【点灯のしかた】

- ライト入／切スイッチを押すとLEDライトが点灯・消灯状態に切り替わります。

ライト点灯・・・電源スイッチ「入」時  
ライト消灯・・・電源スイッチ「切」時



### 【照射角度の調整】

自転車の前方約10mの路面を照らすように調整してください。

### 【注意】

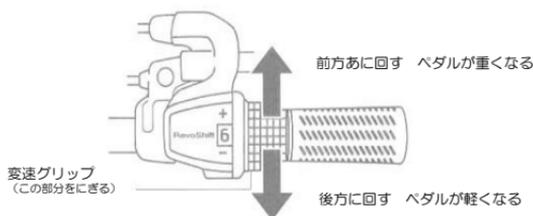
- ・夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量が少ない状態（残量表示1ヶ点灯状態や点滅）で走行中バッテリーが切れた場合はライトも消灯します。

## ～変速機について～

### 【変速のしかた】

- 変速グリップを回します。

- (注) 停車中では変速出来ません。
- (注) 変速操作は、交通量の多くない安全な状況で、1段つつ行ってください。
- (注) ご自身の体調や脚力に応じた、変速位置やアシストモードをお選びください。



イメージ図

# 停止、駐輪のしかた

1. 自転車を停止させ、電源を切ってから自転車を降ります。

## ブレーキのかけかた

後ブレーキをかけながら前ブレーキをかけてください。

※左側が後ブレーキ、右側が前ブレーキです。

※下り坂では、強くブレーキをかけっぱなしにしないで、

小刻みにかけてください。

※前ブレーキをかけたとき、コツコツと音がすることがありますが

性能上問題ありません。



前ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください。

後ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください。

## 電源の切りかた

電源スイッチを押し、残量表示ランプが消えたことを確認します。

\*バッテリーキーを抜くには ⇒ (P17)

## 2. 鍵について

本体には、鍵（サークル錠等）は標準装着されていません。

お客様ご自身で盗難防止用の鍵をご用意頂くようお願いいたします。

\*雨ざらしになるところには、駐輪しないでください。



イメージ図

# 充電のしかた

## 1. 充電場所。

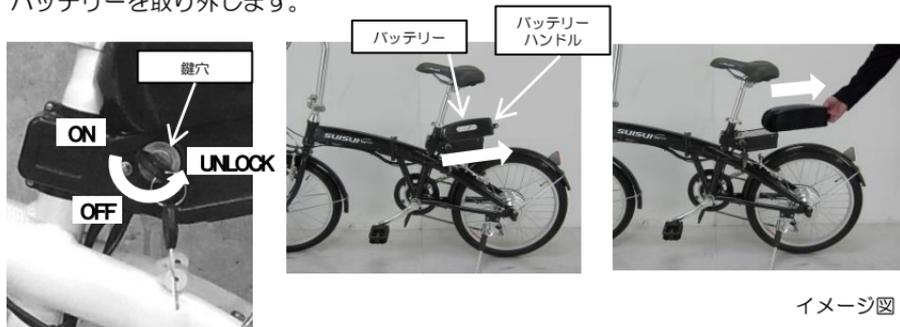
- 風通しがよく湿気の少ないところ
- 平坦で安定のよいところ
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ
- 周囲温度が0℃~40℃のところ
- 水がかからないところ
- 幼児やペットなどがいたずらをしないところ

## 2. バッテリーを取り外します。

① キーを鍵穴に差し込み、反時計方向に回し、UNLOCKの位置に合わせます。

OFFからUNLOCKに回すときは、キーを押しながら回してください。

キーがUNLOCKの位置になったことを確認して、バッテリーハンドルを持ってバッテリーを取り外します。



イメージ図

### 3. バッテリーを充電器に接続します。

①充電器の電源プラグをコンセントに差し込みます。

②バッテリーの充電コネクターの防水キャップを外します。

③充電器のプラグをバッテリーの充電端子にしっかりと奥まで差し込んでください。

\*充電器のランプが赤色に点灯します

【ご注意】

- 傾いた所で充電しないでください。バッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。
- 充電器のプラグをバッテリーにしっかりと奥まで差し込んでください。差し込みがゆるいとバッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。また、充電器の赤ランプが点灯せず充電できない場合もあります。
- テレビやラジオの近くで充電しないでください。テレビやラジオに雑音が入る場合があります。その場合は電気製品から離れたところで充電してください。
- 充電器のプラグをコンセントに差し込む前にバッテリーと接続すると、多少火花がでる場合があります。上記、①②③の手順で作業してください。

#### バッテリーの充電について

- (1)バッテリーは工場出荷時、充電されていませんので、使用になるときは充電してください。長期保管される場合は満充電にしてください。また、使用しなくてもわずかず放電します。1ヶ月に一度充電して保管してください。
- (2)バッテリーの状態や使用環境により、まれに充電できなかったり、正常に充電が完了しない場合があります。この場合は一度充電器のコンセントを抜き、3分以上間をおいて充電してください。
- (3)まれですが、下記の事象が発生することがあります。
  - ・充電器で充電が完了しても操作パネルの残量ランプが3灯点灯しない。
  - ・操作パネルの残量ランプ表示が2灯または1灯点灯しているのに急にアシストが停止する。この場合、実際の電池容量に対し、残量表示のズレが生じている可能性があります。満充電完了後、一度バッテリーを充電器からはずし、再度充電器にセットして充電を行ってください。

### 4. 充電方法

#### 充電時間：

充電前のバッテリー状態や外気温などにより異なりますが、残量表示ランプが1つになってから充電した場合、約4時間です。

【ご注意】

- ご購入後初回の充電では充電時間が多少長くなることがあります。
- 充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

### 5. 充電完了後、電源プラグをコンセントから抜きます。

#### 充電完了

充電器のランプが赤色から緑色に変われば充電完了となります。速やかに充電プラグをバッテリーから外して、電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリーの防水キャップをしっかりと装着してください。

【ご注意】

- バッテリーを充電器に取り付けたまま持ち上げると、充電器がはずれて落下しケガをする恐れがあります。
- 充電器の電源プラグ及び充電プラグは、コードを持って取りは外さないでください。断線など充電器の故障の原因となります。



イメージ図

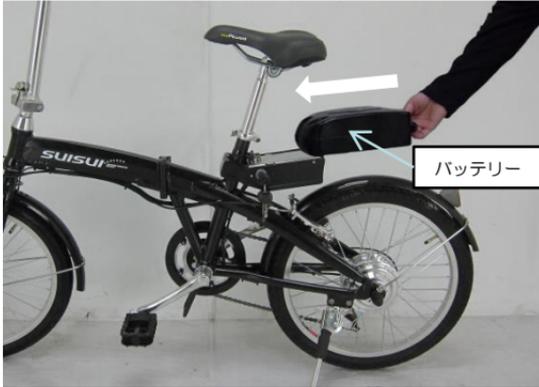
バッテリー本体

## 6.バッテリーを取りつけます。

①バッテリー取り付け部に異物が無いかを確認します。

※異物が有る場合は取り除いてください。

②下図の順番でバッテリーを矢印の方向に取付け、「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込みます。



イメージ図

※装着後、バッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。

# バッテリーについて

バッテリー交換の目安 バッテリーには寿命があります。

●バッテリー交換は有料です。

バッテリーの交換時期は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが、使用できる時間が新品時より著しく短く(約半分以下)になったときが交換時期です。

●バッテリー交換時期の目安

バッテリー交換時期の目安として、約300~500回の充電の繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が300回未満の場合でも、ご使用や保管の条件等により、1~2年程度の使用期間で一充電あたりの走行距離が著しく短く(新品時の約半分以下)なる場合があります。

※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなりアシスト力が低下することがあります。バッテリーを温度15~25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。また、ペダルを強く踏み込んだ状態で走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。

※バッテリーは消耗品です。「バッテリー交換時期の目安」と保証期間は関係ありません。

## ご 注 意 !

バッテリーのカギは3本付属しています。  
カギを紛失しないよう大切に保管してください。

# お手入れと保管

## お手入れについて

- 本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。
- 汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。



水洗いはしないでください。雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。浸水によって電気部品（モーター、バッテリーなど）および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。

## 注意：

シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ヒビ割れの原因になります。

- スポーク・ペダルシャフトなどのスチール部品は、布に防錆剤を吹き付けて「ふいてください」。
- フレームなどの金属塗装部は、汚れをふき取った後、布に少量のワックスをつけてみがきます。

## 保管について

1. 保管場所（下記条件を満たすところ）を決めます。
  - 風通しがよく湿気の少ないところ
  - 平たんで安定のよいところ
  - 直射日光や雨つゆの当たらないところ  
※雨ざらしになるところは避けて保管してください。
2. 電源スイッチが「切」になっていることを確認します。
3. タイヤ空気が減っているときは、空気を入れます。
4. 市販のワイヤーロック等で盗難防止に備えることをお勧めします。
5. いたずら防止のためキーは鍵穴から必ず抜き取って保管してください。  
※キーはOFFの位置で抜くとバッテリーはロックされます。  
※キーがUNLOCKの位置ではバッテリーが外せる状態ですので、キーはOFFの位置で抜いて保管をしてください。

鍵穴



イメージ図

- 長期間（1ヶ月以上）保管されるときは、バッテリーを車からはずし、満充電にして室内の涼しい所で保管してください。  
また、使用しなくてもわずかず放電します1ヶ月毎に充電し、再使用時は満充電をしてからご使用ください。
- 自転車を廃棄するときは、各自治体の指示内容に従って処理してください。

## リチウムイオン電池のリサイクルについて

- この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。  
リチウムイオン電池はリサイクル可能な、貴重な資源です。  
不要になったバッテリーは完全に放電（アシスト走行ができなくなるまで）させてから、販売店または充電式電池リサイクル協力店にお持ちいただきリサイクルにご協力下さい。

使用済みの小型充電式電池のリサイクルにご協力願います。



Li-ion

# 故障かな？と思ったら (自転車について)

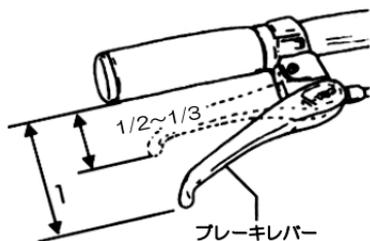


- 次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 改造しないでください。修理技術者以外の人は、分解や修理をしないでください。

こんなとき	調べるところ	直しかた
ペダルが重い。	電源スイッチがオンになっていますか。	電源スイッチをオンにしてください。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または自転車店に修理依頼をしてください。
電源スイッチを押しても残量表示ランプが点灯しない。	バッテリーが充電されていますか。	バッテリーを充電してください。
	バッテリーは確実に固定されていますか。	バッテリーの取付状態を確認してください。
走行できる距離が短い。	上り坂の連続走行や発進停止の繰り返しなど、高負荷運転をされていませんか。	走行条件によって、走行できる距離は短くなります。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。 (標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または自転車店に修理依頼をしてください。
	長期間使用しないで保管されていませんか。	バッテリーは自己放電します、長期間保管するとバッテリー残量が減りますので充電してください。
	前照灯が点灯されていますか。	前照灯を点灯した場合、走行できる距離が短くなります。 異常ではありません。
バッテリーの取付ができない。	バッテリー取付部分などにゴミなどの異物はありますか。	異物などを取り除いてから、バッテリーを取り付けてください。
変速できなかつたり、ガタガタ音がする。	変速機の調整ねじを回したりませんでしたか。	お買い上げの販売店にご相談ください。
	停車中、変速しましたか。	お買い上げの販売店にご相談ください。

## ブレーキの調整

- ブレーキは安全に乗るために一番大切なものです。いつも最高の性能が発揮できるように乗車前には必ず点検してください。
- ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが $1/2 \sim 1/3$ くらいでブレーキが効くようにしてください。



- !** ブレーキワイヤーは1年ごとに交換してください。サビやほつれの異常を感じた時はすみやかに交換してください。

## ブレーキレバーの遊びと調整

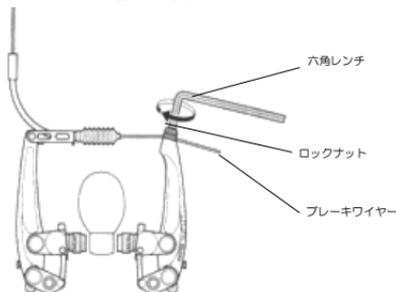
- ブレーキを長期間使用するとブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの効が悪くなります。その場合、ロックナットを一時的にゆるめて、ブレーキゴムを両側からリムに押しつけるようにしてブレーキレバーの遊び(ブレーキワイヤー)を調整し、ロックナットを締めなおします。リムとブレーキゴムの隙間が左右平均して2mmくらいが適当です。

### ワイヤ式前ブレーキ

- ロックナットをゆるめ、指でブレーキゴムを両側からリムに押しつけるようにしてブレーキレバーの遊びを調整します。調整後はゆるめたロックナットをよく締めつけてください。

### ワイヤ式後ブレーキ

- ロックナットをゆるめ、アジャストボルトを左に回して調整します。(車輪の回転が重くなりますので、アジャストボルトを回し過ぎないように)。調整後はゆるめたロックナットをよく締めつけてください。



- !** ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を自分で行わないでください。

- 次の場合は販売店にご相談ください。

- ①アジャストボルトで調整し切れない場合。
- ②片効きしている場合。片効きしていると、リムとの適切な隙間が得られないばかりか、ブレーキゴムが常にリムに当たりブレーキゴムの摩耗が激しくなります。
- ③ブレーキゴムはリム側面にきちんと合っていますか。ブレーキをかけたとき、ゴムがタイヤに当たっているとタイヤ切れの原因となります。また、リム側面からブレーキゴムがはずれているとブレーキゴムの片べりを起こします。
- ④ブレーキゴムが摩耗して溝の残りが1mmになった時はブレーキゴムを交換してください。
- ⑤ブレーキの効が悪くなった場合。

# 故障かな？と思ったら (充電器、バッテリー)

こんなとき		調べるところ	直しかた
充電できない	充電器の赤または緑ランプが点灯しない。	電源プラグはしっかりと差し込まれていますか。バッテリーと充電器は確実に接続されていますか。	電源プラグをしっかりと差し込み、充電器にバッテリーを確実に接続してください。
	充電器の赤または緑ランプがゆっくりと点滅している。	充電直後ではありませんか。	充電後すぐに充電しようとしても、充電しないことがあります。満充電からの追加充電はしないでください。温度が下がってくると充電を開始します。
		周囲温度の高いところ（40℃以上）あるいは低いところ（0℃以下）で充電されていませんか。	バッテリーの内部温度が高いと、充電しないことがあります。涼しい所で充電してください。温度が下がってくると充電を開始します。温度が低い場合は室内などの暖かい所で充電をしてください。
		走行直後ではありませんか。	走行直後でバッテリー内部温度が高いと、充電しないことがあります。温度が下がってくると充電を開始します。
充電中、異常を感じたら (異音・異臭・煙がでるなど)			電源プラグを抜いてお買い上げ販売店にご相談ください。
充電器やバッテリーが熱くなる		手で触れられないくらい熱いですか	充電中は多少熱く（40℃～60℃）になりますが故障ではありません。手で触れないほど熱いときは異常です。電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にご相談ください。

# 防犯登録について

- 自転車購入時は法律で防犯登録を行う事が義務付けられています。  
購入後、お近くの自転車用防犯登録所の看板のある自転車販売店にご相談ください。

BM-A30



車体番号

イメージ図

- 盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## TSマークについて

- TSマークは、道路交通法令の基準に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した自転車に貼付されます。自転車に貼られたTSマークは、はがさないでください。  
※工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。

株式会社 カイホウジャパン	
	形 式
駆動補助機付自転車 型式認定番号	
普通自転車 型式認定番号	

## 安全のための点検・調整

### 乗る前の点検

「乗る前の点検」とは、ご使用前に、毎日お客様ご自身でおこなっていただく最少限度の点検・調整の事です。  
「おのりになるまえに」に書かれた点検方法に従い、ご使用前に必ず実施してください。

### 定期点検・調整

「定期点検・調整」とは、未永く安全にご愛用いただくため、お客様が変わってお買い求めいただいた販売店などでおこなう点検・調整の事です。販売店（自転車組立整備士・自転車安全整備士）へご相談ください。  
※料金は有料となります、あらかじめ販売店などにご相談ください。

# 点検・整備チェックリスト (点検時以外でも異常を感じた場合、点検整備をお受けください)

自転車は時がたつにつれて自然に劣化が出ます。

重要部品は、一定期間経過するたびに調整する必要がありますので、

定期点検をお受けください。(有料)

点検項目	2ヶ月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
大きさは乗り手の体格にあっているか												
サドルにまたがって、足が地面に届くか。またサドルの固定は確実か												
ハンドルの高さは適正か、また固定は確実か												
フレーム、前ホークに変形や亀裂はないか												
ヘッド、ハンガー小物にガタ・摩耗はないか												
どろよけはしっかり固定されているか												
リヤキャリアは片寄っていないか、しっかり取付されているか												
スタンドの取付と作動はよいか												
タイヤの空気は適正か、すりへっていないか												
ペダルはクランクと垂直になっているか												
クランクに曲がりないか、ガタつきはないか												
ペダルはなめらかに回転するか												
車輪の振れ、スポークのゆるみ、軸部のガタはないか												
ブレーキゴムなどすりへっていないか												
レバー間隔は正常で、前後のブレーキはよく効くか												
チェーンのたるみ、張りは適正か												
前照灯は点灯するか												
リフレクターは破損していないか												
ベルは良く鳴るか												
ギアチェンジは正確に作動するか												
定期点検・整備を実施した販売店ならびに年月日		年月日										

※書き方 点検・・・良好○ 不備×